

環境対策特別委員会(第8回)

日時 平成24年2月21日(火)

午後1時30分~

場所 第3委員会室

1 開 議

2 日程説明

3 議 題

ごみ減量化についての提言について

4 その他

委員会の今後の方向性について

次回の日程、内容について

ごみ減量化についての提言

青く輝く地球、はるか祖先から受け継いだ緑の大地に代表される自然環境を守り、人々の平安な生活体系を次代へ引き継ぐという私たちに課せられた使命は非常に大きい。そのためにも、地球温暖化の危機に瀕した今、CO₂削減対策は緊急の課題である。

また、市の事務事業において、CO₂の発生率が最も高いのがごみ焼却によるものである。今後、向こう4年間で焼却場の基幹改良事業として約30億円の費用がかかるとの試算も出されており、施設の延命化においてもごみ減量化は喫緊の課題である。

こうした点から、亀岡市議会環境対策特別委員会では地球温暖化に鑑みCO₂削減対策について、ごみ減量化の観点からの取り組み方を、担当課からの現状説明や委員間討議を経て検討してきた。その結果、日々の生活と切っても切り離せないごみ問題を常に意識する中で、行政と市民が現実及び未来を見据えた取り組みを推進することの重要性を改めて強く認識したものである。

平成22年度決算認定に係る附帯決議においても指摘したプラスチック系ごみの分別、再利用については、一部地域において具体的な取り組みが先行実施される予定であり、今後も全市的な取り組みに広げられることを大きく期待するとともに、特に当特別委員会では十分な取り組みが進んでいない生ごみの減量化について下記のとおり提言するので、適切に措置を講じられるよう要望する。

記

1 生ごみ減量化への取り組み

- (1) 生ごみ処理機等の一層の普及促進を図ること。
- (2) 各小学校において、学校給食の残菜を大型生ごみ処理機等で堆肥化し、学校菜園等で利用することにより、ごみ減量化を進めるとともに児童への環境教育の機会とすること。
- (3) モデル地域を定めて、食品残渣のリサイクルシステムに取り組み、市全体の取り組みへの研究を進めること。
- (4) 事業所からの食品廃棄物のリサイクルの推進を図ること。

2 市民への周知啓発、支援

- (1) アンケート調査等を通じて市民意識の動向把握を図るとともにごみ分別、減量化への意識啓発を図ること。
- (2) 食用廃油回収等の市民のごみ減量化に係る取り組みを広く市民に広報し、支援する

こと。

- (3) 家庭からの生ごみのうち手つかずの食品が少ないことから、生ごみを出さない調理方法等の普及啓発やもったいない思想の啓発、推進を図ること。

平成24年3月2日

亀岡市長 栗山 正隆 様

亀岡市議会環境対策特別委員会
委員長 中村 正孝